

◇はじめに

第2ターム term（6年目～10年目）の教育構想

『夢かなう道』Dream Road	第Ⅰ期(夢つかむ)	第Ⅱ期(夢ふくらむ)	第Ⅲ期(夢はばたく)
-------------------	-----------	------------	------------

2019年度は、開校6年目、開校時に1年生として入学した児童が6年生となる。はばたく「えどとり小」の年として位置づけ『生徒の夢は学校の目標』を目標に、特色ある教育課程、学校行事などを計画に沿って実施し、私立学校としての独自性を出しながら、基礎基本の力の定着を図り、思考力・判断力・表現力の涵養を目指す。

今年度は、第2ターム（6年目～10年目）の出発年として、これまで5年間の教育実践を整理し、「夢かなう道」**Dream Road**を設定し、上の3期に分けて、学校行事や学年活動を展開して、夢の追求そして実現を目指す。

1. 「教育理念・教育目標」「教育方針」「校訓」に基づく実践

本校は私学であり、社会や保護者のニーズに応えるよう不断の努力をすることが、本校発展に不可欠であることを自覚すること。

創立の理念を踏まえ、本校の教育活動の根本をなす「教育理念・教育目標」「教育方針」「校訓」を最重要視し、全教職員が十分理解会得し、日々のあらゆる教育活動を通じて、その精神ならびに経営方針に基づく実践に向けて、全員一丸となって協力し、努力研鑽を重ねながら実現すること。

◇教育理念・教育目標

「心豊かなリーダーの育成」

将来のグローバル社会に貢献できる有為な人材の育成を教育目標とする。

◇教育方針

個性を尊重し、一人ひとりの可能性を伸ばすとともに、人間教育に重きを置き、他を思い遣る豊かな心を育てる。

小・中・高の12カ年一貫教育を通して、『規律ある進学校』として、「心力」「学力」「体力」のバランスのとれた三位一体の教育を行う。

また「生徒の夢は学校の目標」を合言葉に、夢の実現に向けて努力を重ねる児童を、教職員は学校を挙げて全力で応援する。

◇校訓

「誠実」何事においても誠心誠意をもって取り組む心を大切にする。

「謙虚」素直な心で自分を見つめ、学びの姿勢を大切に、自己の向上に努める。

「努力」文武両道のもと、学問や運動・芸術を通して人格形成に一生懸命に励み、切磋琢磨する。

2. めざす児童像

- 素直で明るく、元気よく挨拶ができる、礼儀正しい児童
- 夢を持ち勉強や運動・文化活動に意欲的に、粘り強く取り組むことができる児童
- 読書に励み思慮深く、思考力があり自分の考えをきちんと発言したり、他の意見にも謙虚に耳を傾けたりすることができる内面的な深みのある児童
- 自分を律し他者への思い遣りがあり、コミュニケーション力や、問題解決能力に優れたリーダーシップの発揮できる児童
- 正義感が強く忍耐力や根気強さがあり、常に感謝の気持ちを忘れない児童

3. 具体的な教育内容 10の特色

○心を育む

・心の教育

心の教育として「道徳教育」を重視。道徳的実践力を持った人間性豊かで思いやりのある児童を育む。

・リーダーシップ・キャリア教育

「7つの習慣」をもとに、リーダーシップ力を強化。「夢ボード」など様々な思考ツールを使い夢の実現に向けて、今自分にできることを考える。

○世界へ羽ばたく

・英語教育

独自の英語評価基準である”Can Do リスト”により「聞く・話す・読む・書く」の4技能の総合力を培い、「使える英語」を修得する。

・グローバル教育

国内英語研修や海外研修を通して、グローバル社会に求められる主体性、自己決定行動力、共生力、国際的資質と能力を養い、自らのアイデンティティを構築。世界に通用する人材の育成を目指す。

○未来を先取る

・ICT教育

4年生からは1人1台タブレットを所有し、日々の生活や各教科の授業で積極的に活用。これまでの授業より「さらにわかる」授業を実践していく。

○思考を深める

・国語教育

すべての教科の基礎であり、思考力の源となる国語教育では、読書指導に力を入れ読解力・語彙力を鍛えていく。

・論理的思考力

自分の考えを論述する活動を多く取り入れ、多彩な考えを理解しながら思考力・判断力・表現力を高める授業を行う

○未知に触れる

・体験教育

実験や観察、田植え・稲刈りなど体験学習を重視し、自然や環境問題に関心を抱かせ、豊かな感受性、観察力、考察力などが高まるよう導く。

・アフタースクール（講座・学童）

放課後に優れた講師、コーチ、本校教員による講座を通して、児童の興味関心を高め、潜在能力を引き出す。また、「7つの習慣」を取り入れた学童保育を通して、生活習慣や学習習慣を身につけ、社会性と自主性を育む。

・教科担任制

各教科担当教員の指導のもとで深い学びを実現。授業を通して教員自身の専門性もより高まっていく。

4. 2019年度の学校目標

2019年4月、開校6年目、1年生入学の児童が6学年となる「えどとり小」として、第2ターム term（6年目～10年目）の教育構想のもと、『生徒の夢は学校の目標』を目標に、教育課程、学校行事、後援会（保護者会）活動などを計画に沿って、着実かつ大胆に進めていく。本校の特色ある教育内容を、公開授業や公開行事、学校説明会を通して広く発信することにより、児童募集の一層の活性化を図る。

また、本校独自のアフタースクール（講座と学童保育）を発展充実させ、児童の潜在能力や可能性をより一層引き出し、主体性や社会性を身に付けるよう活動の充実を図る。

(1) 教育課程

学習指導要領に示されている教育課程を踏まえ、科目や授業時数を増やすなどして、私立学校としての教育の特色を打ち出し、日常の学習内容の充実を図る。

(2) 学校行事

児童の自立と協調、リーダーシップ力を養い、運営方法を工夫し、行事内容の充実を図る。

(3) 後援会（保護者会）活動

保護者参画の活動を計画し、児童、保護者、教員が協力し合って、教育活動の充実を図る。

5. 重点目標 ～「心力」「学力」「体力」～

① 「心」を育てる

- ・自ら進んで元気よく挨拶する習慣の徹底
- ・恵まれた教育環境の中での体験学習の充実
- ・学級や学年内の活動、異学年や異学校との交流活動の展開
- ・独自のテキストを使用してのリーダーシップの育成

② 「知性」を育てる

- ・子どもがわかる学習、子どもができるようになる学習の重視
- ・全教科と領域等で基礎的な知識や技能の獲得100%の達成
- ・生涯学び続ける「知的好奇心」の喚起持続

③ 「からだ」を育てる

- ・子どもの発達に合わせた基本的生活習慣の定着
- ・日常の遊びや運動、スポーツ大会行事を通しての基礎体力の増進
- ・給食を通しての望ましい食習慣の形成

④ 「国際性」を育てる

- ・ネイティブ教師と日本人教師による五感を活用した英語の学習
- ・EDOTORI イメージョン（音楽、体育等）の基本方針の明確化とその実践
- ・隣人から始まる人間関係の構築
- ・国内英語施設や海外提携学校等での語学研修や異文化体験活動の実施

6. 各学年の教育目標

「遊び大好き」「学習大好き」「友達大好き」「先生大好き」「学校大好き」の子を育てる。

◇第1学年「みんななかよし」

- ・元気にあいさつする
- ・人の話をしっかり聞く
- ・自分のことは自分でする

◇第2学年「自分や友達を大切にしよう」

- ・あいさつやことばづかいをきちんとする
- ・人の話を聞いて理解する。
- ・友達と力を合わせる

◇第3学年「自分や自分を取り巻く人を大切にしよう」

- ・あいさつや身だしなみをきちんとする
- ・人の話を聞いて自分の話をする。
- ・友達や先生と力を合わせる

◇第4学年「自分や自分を取り巻く人を広げて大切にしよう」

- ・あいさつや身だしなみをきちんとする
- ・人の話を聞くことで互いに理解し合う
- ・友達や先生、家族と力を合わせる

◇第5学年「自分や周囲の人を大切にしよう」

- ・あいさつや身だしなみの手本を示す
- ・人の話を聞くことで互いに理解しあう
- ・友達や周囲の人と力を合わせる

◇第6学年「自分や周囲の人々を大切にしよう」

- ・あいさつや身だしなみの手本を示す
- ・人の話を聞くことで互いに理解を深め高め合う
- ・友達や周囲の人々と力を合わせる

7. 規律ある生活

(1) 時を守る

チャイムに従って行動すること。集合時刻があるときには、トイレを済ませ、5分前には集合場所に着き、心を整えて待つこと。

(2) 場を清める

誰もが快適に過ごせるように、施設をきれいに使用する。掃除はみんなで力を合わせ、心を込めて丁寧に行う。常に身の回りの清潔や整理整頓に心がける。

(3) 礼を正す

朝夕の挨拶は姿勢を正し、相手の目を見て、元気な声で行う。名前を呼ばれたら「ハイ」とはっきり返事をする。席を立ったらイスを戻す。履き物を脱いだら必ず揃える。

8. 規律ある学習

(1) ノートは学習の鏡

教育の原点：「学習は黒板とチョークで勝負する」。板書は原則ノートに書く。P C機器は効果的に使用する。

- ・「学習課題」は青色、「学習のまとめ」は赤色で書く。
- ・ノートは必要に応じて提出させて点検する。コメントや評価を入れる。

(2) 時間厳守と挨拶の励行

- ・チャイムと同時に学習を開始する。そして、終了時刻を守る。教科担任制であり、次時に引きずらない。
- ・学習の初めは「起立」と児童が号令をかける。児童・教師ともに「お願いします」と言った後一礼をする。終わりは「起立」「ありがとうございました」一礼で終了する。

(3) 宿題や家庭学習

- ・各教科主任や学年主任を中心として宿題について、共通理解を持って宿題を出す。1日の家庭学習時間は、学年ごとに適切な時間を提示する。学年×(かける)15分を目安とする。
- ・宿題未提出者については、教科担当や担任が把握し、家庭環境等を鑑みて指導する。

9. いじめ「ゼロ」の江戸取小 →HP【いじめ防止基本方針】参照

いじめは一人ひとりの人権にかかわることであり、絶対あってはならない。学校教育の中でいじめがあれば、教師の責任ととらえ、早期発見と即時解決に心がける。

- ・休憩時間になっても一人教室の片隅にいる児童
- ・元気がなく、笑顔がない児童
- ・学習中、ぼんやりしていて集中力がない児童
- ・机をわずかでも離されている児童
- ・登下校時、カバンやバッグなどを、友達から持たされている児童
- ・口数が少なくなってきた児童

こうした状況の児童を見かけたら、いじめられている現場の一つと考える。話をよく聞き、即時に対応すること。とはいえ、児童から話を聞き出すことは容易ではない。そのためには、日ごろから、「何でも話せる先生」としての信頼を得ておく必要がある。聞き出した情報は整理し、学年部長や生活指導主任等を交え、学年間で共通理解し、管理職に報告する。教師一人で悩まず、小学校全体で解決していくことが大切である。